

Ⅱ 調査結果のまとめ

1 現在の住居について

今の住まいに居住し始めた時期は、「平成 17 年（2005 年）以降」が約 3 割を占めています。

今後の居留意向は、「現在の場所に住み続けたい」が約 5 割となっていますが、平成 20 年度の調査から徐々にその割合が低くなっています。また、35～44 歳、50 歳以上で「現在の場所に住み続けたい」の割合が高く、居住年数が長いほど「現在の場所に住み続けたい」の割合が高くなる傾向がみられます。

2 現在の裾野市の取り組みについて

現状の評価と今後の重要度

満足度・重要度得点による、順位付けの結果、『2 必要な時に適切な医療が受けられる』『25 消防・救急体制』は、満足度・重要度ともに上位 3 位以内に順位付けられています。

また、満足度の最下位は『23 鉄道・バスの便利さ』、重要度の最下位は『32 新たな観光地づくり』となっています。

ポートフォリオによる現状評価と重要度の評価

健康・福祉・教育分野、自然・環境・都市基盤・安全分野は重要度が高く、今後の重点課題として検討が必要なタイプⅠ、事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプⅡ、地域産業分野は、満足度、重要度ともに低く、満足度および重要度が低い理由についての検証が必要なタイプⅢに分布しています。

ア みんなの健康 互いの福祉 人づくりと文化を世界に誇る（健康・福祉・教育分野）

ポートフォリオによる現状評価と重要度の評価は、11 項目中 5 項目が今後の重点課題として検討が必要なタイプⅠに分布しています。

満足度と重要度の経年変化をみると、『3 スポーツを習慣にした生活を送る』『4 高齢者が自立して元気に生き生き暮らす』『5 障害のある人の社会参加と自立』『8 人間性豊かな子どもを育てる教育』『9 生涯学習や文化活動の機会や場所』『10 次世代を担う健全な青少年を育てる』『11 地域コミュニティ活動の活発化』については満足度、『7 安心して子育てと就労が両立できる』については重要度が高くなっている傾向がみられます。

現状の満足度と重要度では、『1 心身ともに健康で充実した生活を送る』『2 必要な時に適切な医療が受けられる』の満足度が高く、『2 必要な時に適切な医療が受けられる』の重要度が高くなっています。

また、現状の満足度と今後の重要度の差が大きいものは、『7 安心して子育てと就労が両立できる』で満足度が低く、重要度が高くなっています。

イ 人と自然が調和した環境快適都市（自然・環境・都市基盤・安全分野）

ポートフォリオによる現状評価と重要度の評価は、17項目中5項目が事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプⅡ、同様に5項目がこれまでの施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられますが、重要度が低く、施策が過剰になっていないか、検討が必要なタイプⅣにそれぞれ分布しています。

満足度と重要度の経年変化をみると、『12 恵まれた自然景観の活用』『14 リサイクル活動』『15 身近な緑の環境』『16 きれいな川を守り、水に親しむ』『17 山や川の災害を防ぐ』『18 上・下水道事業』『24 地震災害対策』『25 消防・救急体制』『26 犯罪からまちを守る』『27 交通安全対策』『28 安全で豊かな消費生活』については、満足度が高くなっている傾向がみられます。

現状の満足度と重要度では、『15 身近な緑の環境』の満足度が高く、『24 地震対策』『25 消防・救急体制』『26 犯罪からまちを守る』の重要度が高くなっています。

また、現状の満足度と今後の重要度の差が大きいものは、『19 裾野の顔となる拠点市街地の整備』『22 道路網の便利さ、快適さ』『23 鉄道・バスの便利さ』で満足度が低く、重要度が高くなっています。

ウ 新世紀を支える地域産業のパワーアップ（地域産業分野）

ポートフォリオによる現状評価と重要度の評価は、6項目中3項目が満足度、重要度ともに高く、事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプⅡに分布しています。

満足度と重要度の経年変化をみると、『29 農林業の活性化』『31 にぎわいのある商業地づくり』『33 裾野市の全国に向けたアピール』については、満足度が1点未満ですが、状況が改善されつつあることがうかがえます。

現状の満足度と重要度では、『30 先進企業を核とした地場産業の活性化』の満足度が高く、『29 農林業の活性化』『30 先進企業を核とした地場産業の活性化』『31 にぎわいのある商業地づくり』『34 時代に対応した情報の発信』の重要度が高くなっています。

また、現状の満足度と今後の重要度の差が大きいものは、『31 にぎわいのある商業地づくり』で満足度が低く、重要度が高くなっています。

エ 頑張る市民・支える市役所（市民主体・行財政分野）

ポートフォリオによる現状評価と重要度の評価については、4項目中、今後の重点課題として検討が必要なタイプⅠ、事業の継続実施、もしくは施策展開について検討が必要なタイプⅡ、満足度、重要度ともに低く、満足度および重要度が低い理由についての検証が必要なタイプⅢ、施策が充実した結果、満足度が高くなったものが含まれていると考えられますが、重要度が低く、施策が過剰になっていないか、検討が必要なタイプⅣにそれぞれ1項目が分布しています。

満足度と重要度の経年変化をみると、『35 市民と行政の協働によるまちづくり』『36 男女共同参画社会』『37 市民のための行政サービス』については、満足度が高くなっています。

また、『38 健全な財政運営』については、平成20年度以降、満足度が低くなっている傾向がみられますが、他の項目に比べ重要度が高いため、現状の満足度と今後の重要度の差が大きくなっています。

3 市の政策全体に対する満足度

市の政策全体に対し、満足している人は約3割となっており、平成19年度から平成21年度まで満足度が高くなってきていましたが、その後、4.2ポイント減少しています。

年代別でみると、他の年代に比べ、40～44歳で満足している人の割合が高い一方、45～49歳で満足していない人の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、千福が丘、企業団地で満足している人の割合が低くなっています。

4 今後さらに充実すべき市の取り組み

今後、充実すべき取り組みは、「必要な時に適切な医療が受けられる」「安心して子育てと就労が両立できる」とする人が6割以上となっています。

性別でみると、「必要な時に適切な医療が受けられる」の他に、男性で「高齢者が自立して元気に生き生き暮らす」「鉄道・バスの便利さ」が、女性で「安心して子育てと就労が両立できる」「人間性豊かな子どもを育てる教育」が上位に入っています。

年代別でみると、「必要な時に適切な医療が受けられる」の他に、30～34歳で「安心して子育てと就労が両立できる」が、40～44歳で「鉄道・バスの便利さ」が、60～64歳、70歳以上で「高齢者が自立して元気に生き生き暮らす」が1位となっています。

5 市の行政サービスや業務の満足度（第4次総合計画策定に向けて）

分野別の満足度では、他の分野に比べ、「(3) 市民生活分野」で満足度が高い一方、「(1) 健康・福祉分野」「(2) 教育分野」で満足度が低い傾向がみられます。

また、各分野の多くの項目で満足度が不満とする割合を上回っていましたが、(1) 健康・福祉分野の『音楽・伝統文化・史跡や旧跡などの、文化に触れる機会の多さ』、(4) 基盤整備分野の『公園や広場などの整備状況』『道路や歩道の整備状況』、(5) 行政運営分野の『市の「予算の使い方」や「対応の速さ」など、行政運営の効率性』については、不満とする割合が満足度を上回っています。